

広告



「アテック」が手塩にかけて育てた自慢の農産物が届きます。



平成18年から活動を始めた「アテック」。その「農産物出荷BOX」は、着実にリピーターを増やしています。



厚田区の地元農協青年部員4人で構成される「厚田アグリビジネス研究会（通称：アテック）」では、平成19年から旬の農産物や地元の加工品を箱に詰めて季節ごとに届ける「農産物出荷BOX オーナー制度」を開始。新鮮でおいしく、作り手の顔が見えるから安心と人気を集めています。

「自分たちが農業を営む厚田を知ってもらい、こんなおいしい農産物を作っているんだとPRしたかったんです」とは、「アテック」代表の菅原隆道さん。「畑や果樹のオーナー制度というのはよく聞きますが、『農産物出荷BOX』は農産物の“箱”のオーナーになっていただきます。詰め込む農産物は、メンバーが生産した農産物はもちろん、ほかの厚田区の農家が丹精

厚田生まれの旬の野菜を生産者からお届け

こめて育てたおいしい農産物も一緒にお届しています」。募集は年に一度、春に実施。第一弾となる春のボックスには、アスパラやナガイモ、シソジュースなどいろいろ。ほかにも“届いてからのお楽しみ”があって、「それについては、昨年とはまた違うものを考えているので、ぜひ期待してください!」と菅原さん。ぜひ皆さんもオーナーになって、自然豊かな環境で育まれた厚田の季節の農産物を味わってください。

申込期間 4月6日(月)～5月29日(金) ※先着200人まで
 内容 3回(春・夏・秋)コース 10,500円
 4回(春・夏・秋・冬)コース 15,750円
 申込・問合せ アテック事務局
 (JA北いしかり営農販売課 盛重さん) ☎77-2311

メール言葉は何を残すのか

◆「言葉」とは不思議なものと、あらためて思うようになったのは最近のこと。そのきっかけは、4歳の孫が「いろは歌」を誦しているのを耳にしたからだ。もとよりその意味するところや、吉備真備や空海説が何であるかを知りようもないのに、恰も生まれた時から記憶していたかのような感じに可笑しい。◆地方の時代の象徴として、NHKの連続テレビ小説に、方言が取り入れられて久しい。毎朝「だんだん」(注：「ありがとう」の出雲方言)と聞くのも、日本語の豊かな語感性を感じさせてくれる。合併後の石狩も長い海岸線となり、それぞれに故郷の言葉を持っている。大切なものは何なのかを教えることもできる。◆日本語の母音は「アイウエオ」の五音であることは誰でも承知のことであるが、平安以前は八音との伝えもある。山口語司氏の『日本語の奇跡』には「i」と「ii」、「e」と「è」、「o」と「ö」の区別がされていたと記されている。この八音が消えたのは、渡来人が文人としての役割を担ったからとも述べている。◆であるがその一方で、土佐言葉に平安言葉が残って、今でも「づ」「ず」を使い分けると聞いたことがあり、正に言葉は変わることなく変化し続ける生物なのである。同氏は「き」も、甲類の「き」―ゆき(雪)と、乙類「き」―つき(月)に分けることができ、漢字で表すと「企・岐・祗」と「奇・倚・騎・基・記」に分類できるとしている。私には説明できないものの、確かに納得するものがある。消えた言葉でもDNAの深層に潜んでいるのだろう。さて、絵文字・顔文字によるメール文化の先に生まれる新しい日本語とは、いかなるものになるだろう。あの万葉の美しさをどう残すのか楽しみでもある。(市長)